

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和元年度第2回加東市児童館運営委員会								
開催日時	令和元年11月22日(金) 午前10時00分から午前11時00分まで								
開催場所	加東市役所3階 301会議室								
<p>議長の氏名 (委員長 鈴木 正敏)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】5人</p> <p>鈴木 正敏 委員長 長谷川 智子 委員 村上 涼子 委員 平川 真也 委員 岡田 知佳 委員</p> <p>【欠席委員】0人</p>									
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>無し</p>									
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>加東市教育委員会</p> <table border="0"> <tr> <td>こども教育課課長</td> <td>壺井 初美</td> </tr> <tr> <td>こども教育課副課長</td> <td>稲岡 めぐみ</td> </tr> <tr> <td>こども教育課主事</td> <td>坂本 亮太</td> </tr> <tr> <td>加東市児童館長</td> <td>依藤 洋子</td> </tr> </table>		こども教育課課長	壺井 初美	こども教育課副課長	稲岡 めぐみ	こども教育課主事	坂本 亮太	加東市児童館長	依藤 洋子
こども教育課課長	壺井 初美								
こども教育課副課長	稲岡 めぐみ								
こども教育課主事	坂本 亮太								
加東市児童館長	依藤 洋子								
<p>○議事及び会議結果</p> <p>委員長の選出について</p> <p>委員長に鈴木正敏委員を選出しました。</p> <p>議事(1)協議事項「令和2年度加東市児童館の事業計画について」</p> <p>事務局が、資料①から④に基づいて説明し、各委員からご意見をいただきました。</p> <p>議事(2)その他</p> <p>特になし。</p>									

○会議の経過

【開会】

(事務局)

- ・事務連絡（委員任期について）
- ・資料確認

【委員長の選出】

- ・次のとおり委員長を選出しました。
委員長 鈴木 正敏 委員

【議事】

○議事（1）協議事項「令和2年度加東市児童館の事業計画について」

- ・事務局が資料①から④までを説明、その後に委員による質疑応答。

(委員)

ベビー向けの講座が増えている。出産・子育てを初めて経験する人や結婚して加東市に引っ越してきた母親は子育てに対して多くの不安を感じている。子どもとの接し方を学んだり、母親同士のつながりを作る機会になったりと、母親にとって良い支援になっているのではと考える。

(委員長)

今後もベビー向けの講座を続けてほしい。

(委員)

児童館に行くと子どものことをよく見てもらえて心強いので、知らない人にも児童館の活動を知ってほしい。

特に清水寺登山が楽しかった。何度も参加しているうちに子どもの成長を見ることができた。

(事務局)

清水寺登山はリピーターが多く、年々参加者が増えている。家族全員で参加する家庭もあり、後日また登りに行ったという人もいる。

(委員)

子どもが就園してから児童館に行く機会は減っているが、子どもが行きたいと言うので月に1回程度は児童館へ遊びに行っている。

(委員)

今後は「親の学びの場づくり」に力を入れていくという方針であると聞き、子育てに必要な要素であると考えてるので続けてほしい。

今年度の事業にあった「3世代交流事業」の講師は地元住民なのか。

(事務局)

加東市在住であることが講師の条件であるため、全員が地元の方々である。

(委員長)

3世代交流事業は、県の事業なのか。

(事務局)

兵庫県レクリエーション協会による単年度の事業であり、今年度は加東市で行うことになった。地域の中に講師として活動してくださる方が非常に多く、悩まずに事業を進められている。

(委員長)

加東市の規模ゆえに地域と密接に関わる事業が可能になっているのではないかと。来年度以降の実施についてはどのように考えているのか。

(事務局)

市の事業として継続できる方法を検討していく。

(委員長)

しめなわ作りなどは珍しい講座だと思う。

(事務局)

例年、親子ふれあい教室やまちの寺子屋として行ってきた講座を今年は3世代交流事業の一つとして行う。児童館単独で実施する場合は定員を多く確保できず、参加希望者全員を受け入れられなかったが、今年度は県の事業として定員を拡大することができた。

(委員)

今後も児童館では多くの事業を行っていくと思うが、来年度以降の働き方改革を踏まえるとニーズの高い事業に焦点を絞り、どの層に向けてどういった事業を行うのか考えていく必要がある。来館者の全体の増減に加えて、対象とする層がどれくらい来館するかを見込み、最終的に何人来館したのか、その層の来館をいかに増やすかを今後は考えるべきである。その過程で必要な事業、必要でない事業を取捨選択する必要がある。

先ほど話題に挙がっていた3世代交流事業については学校現場でも重要視されており、「地域の中で子どもを育てていく」ことを推し進めていきたい。

(委員長)

来館者数をただ増やすのではなく、どのような層の来館を増やしていくか、狙いを設定するべきかと思う。

(事務局)

来館者数の増加については、児童館職員に頑張っていたいただいた結果である。

今後は児童館事業のうち何を充実させるか考えていかなければならず、そのためには利用者のニーズを把握しなければならない。参考として、児童館へ行き始めたきっかけ(経緯)を教えていただきたい。

(委員)

児童館を知ったきっかけは4か月健診時に紹介された0歳児ひろばである。子どもにどうやって接したらいいか悩んでいた時に参加して非常に楽しく感じ、同じ悩みを抱える母親や児童館職員との関わりを深めるうちに児童館へ通うようになった。

子どもが就園してからは一時期足を運ばなくなっていたが、子どもが行きたいと言った時には時間を作って行ったり、友達と遊ぶ際に児童館へ行ったりと、家や園でできない経験ができる場所であると思う。

(委員長)

健診の際にPRするのが、児童館を知る良いきっかけとなっている。

(委員)

人によっては出産後の健診時は子どものことで手いっぱい、児童館の話をされたことを覚えていない人もいます。母子手帳交付時のほうが余裕を持って話を聞けて、印象に残りやすいかもしれない。一度児童館に行ってから通いやすくなるので、最初のきっかけ作りが重要だと思う。

(事務局)

母子手帳交付のタイミングで紹介ができるよう、健康課と協議していく。

(委員)

姉が以前サークル活動に参加しており、自分が出産した際に姉から児童館に行くことを勧められた。初めて参加したのはママともひろばで、その後も「児童館に行けば誰かに会えて話せる」という気持ちで何か行事があれば参加していた。

一度参加してからは行きやすいと感じるが、「一人で初めて行く時に非常に勇気がいる」と周囲の人も話していた。

(委員長)

近い人がいれば行きやすいが、周りに知り合いが少ない人にとっては難しい。

(委員)

初めて子育てを経験する人であれば尚更不安だと思う。

(委員長)

そういった人は不安も大きいうえに、支援が必要なケースが多い。

(事務局)

一人で子育てに悩み、不安を抱えている人をどのようにして児童館等と繋いでいくかが今後の課題と考える。

(事務局)

家庭児童相談室を通じて来館する人や、近所の人に連れられて来館する人もいます。様々な世代の人に児童館について知ってもらうことも必要かと考える。

(委員長)

どの人に手を差し伸べるか、今後も継続して考えていく必要がある。

(委員)

児童館がどのような場所で何ができるのか、本当に支援を必要としている人に知ってもらうためにも、様々な場所で目に付くようPRすることが大事だと思う。

(委員長)

利用者のニーズがどこにあるか把握し、関係機関で協力し合って児童館事業を進めていきたい。

○議事(2) その他

特になし。

【閉会】

- ・事務局より連絡(次回の委員会について)
- ・閉会のあいさつ(壺井課長)

○当日資料

- 資料① 令和2年度 児童館主要事業計画
- 資料②-1 児童館来館者数（平成26年度～令和元年度）
- 資料②-2 令和元年度 児童館来館者数（前年度との比較）
- 資料②-3 令和元年度 児童館来館者の内訳
- 資料③ 令和元年度 「かとう子育てねっと」運営状況
- 資料④ 令和元年度 児童館主要事業実績・予定

令和元年12月10日

委員長

鈴木正敏

